

いにしえの人々に思いをはせて

西国街道浪漫コース

コンセプトポイント



1 寺家町

「寺家町」はJR加古川駅の西側一帯の大字名で、寺院がこのあたりに莫大な領地を所有していたことから、この名がつけられたと言われている。江戸時代には西国街道の宿場町「加古川宿」として栄えた。現在は寺家町商店街として賑わっている。

チェックポイント 商店街の中にある陣屋は、1752年に建てられ、参勤交代の為に西国街道を通る大名の宿泊施設として使われた。



2 うだつの上がる家

うだつは元々、火事の先の延焼を防ぐために作られていたが、江戸時代中期ごろから徐々に装飾の意味合いが強くなっていった。うだつを上げるためにはそれなりの出費が必要だったことから、これが上がっている家は比較的裕福な家に限られていた。そのうだつの上がっている家が、溝之口の西国街道沿いに残っている。

チェックポイント 「うだつの上がらない」という言葉は上記のことからきている。



3 胴切れの地藏

その昔、西国街道を通る大名行列の前を横切った男が待たずに斬られてしまったが、ふと気がつくとも何事もなく無事だった。そばを見回すと、普段お参りしているお地藏さんの胸が二つに割れ、男の身代わりとなっていたという伝説が残っている。それ以降近隣の人々が「胴切れのお地藏さん」と呼び、大切に祀っている。

チェックポイント 後ろに回ってみると、地藏の胴体が二つに分かれていることが確認できる。



4 教信寺

天台宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来(あみだにょらい)。平安時代前期の僧、教信上人(きょうしんしょうにん)がこの土地に庵を作り、庶民仏教の普及に努めた所である。幕末期に、本堂を焼失したが、明治には書写山円教寺の念仏道場を移築したのが現本堂となっている。また、教信上人の命日には、毎年、「野口念仏」と称し、会式を行っている。

チェックポイント 境内には、県指定文化財である教信上人の石像もあります。また、春には、見事な桜も見られます。



5 五社宮神社(野口神社)

神社の主神は日吉大神(ひよしのおおかみ)で、比叡山延暦寺の守護神、日吉大社(ひよしだいしゃ)から分霊を迎え、のちに四柱(よはしらす)の神を合わせ祀ったという説もある。神社の西にある教信寺は延暦寺の末寺であることから深いつながりがある。1月に厄神大祭、7月に夏祭、10月には例大祭を行っている。

チェックポイント 堀沿いの東側の角には、昔、西国街道を行きかう人々が目印にしていた道標がある。



その昔から人々の往来が絶えることのなかった西国街道は、さまざまな歴史の舞台となってきました。歴史上の偉人たちが行きかったこの道にある寺院をのぞくと、彼らが残していった何かを知ることができるかも知れません。歴史の息吹を感じる旅にあなたも出かけてみませんか？

